

誤登録 新たに60件

個人情報閲覧計10件に

厚労相が陳謝

加藤勝信厚生労働相は13日の閣議後記者会見で、マイナンバーに別人の健康保険証の資格情報が誤ってひも付けされていた事例が新たに60件確認されたと発表しました。個人情報閲覧された事例も新たに5件判明して計10件となりました。

厚労相は「関係者にご迷惑をおかけし、改めて申し訳なく思っている」と陳謝しました。

新たに誤登録が判明した

のは、2022年12月から今年5月22日までの分で、60件のうち4件で個人情報

が閲覧されていました。誤登録はこれまで、21年10月から22年11月までの分として7312件確認されました。このうち個人情報の閲覧はこれまで5件判明していましたが、調査で新たに1件増えました。

同省は全国の健康保険組合などに対し、7月末までに登録データの点検を要請しており、今回は中間段階の結果を公表しました。こ

のため、誤登録の件数はさらに増える可能性があります。

健康組合などが加入者本人とは異なるデータを誤って入力したのが原因とみられます。

運用停止求め

保団連が声明

の運用停止を求める声明を発表しました。

声明では、他人の医療情報がひも付けられた場合、情報の外部流出が安易にできると指摘。ウェブ上に情報が流出すれば、削除・回収は「ほぼ不可能になる」とのべています。

今後、政府は電子カルテや電子処方箋などのデータ共有を図るとしており、投薬・治療情報の取り違えなど「重大医療事故にもつながりかねない」として、「岸田首相のいう『医療の質向上』とは真逆の事態を招く」とのべています。

政府がマイナ保険証の新たな誤登録を公表したことを受け、全国保険医団体連合会（住江憲男会長）は13日、マイナ保険証システム

政府が公表した誤登録数は「氷山の一角」であるとして、全件チェック、全容解明するまで運用停止を訴えるよう強く求めています。